

2013年2月9日

関係機関 各位

大学評価学会事務局

大学評価学会第10回全国大会プログラムについて（ご依頼）

拝啓 時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、大学評価学会は、3月9日、10日の2日間、龍谷大学（深草学舎）において第10回全国大会を開催することとなりました。大会プログラムと「学会通信」を送付させていただきますので、皆様にご案内いただきますようお願い申し上げます。

とり急ぎご送付とご依頼まで。

敬具

事務連絡先

612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

龍谷大学 細川研究室 気付

TEL/FAX : 075 (645) 8634 (ダイヤル)

e-mail : hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp

大会テーマ

大学評価と大学経営

—学生・教員・事務職員・法人の Development—

＜大会コンセプト＞

大学評価学会は2004年3月28日に設立され、本大会は第10回の記念大会となる。「もう一つの大学評価」を理念として歩んできた本学会の歴史は、日本の「大学評価」の問題性を明らかにする歴史であった。もともとあった大学評価と大学評価文化を無視ないしは軽視する形で、急速に制度化されてきた日本の「大学評価」は、いま大きな転換点に直面している。

そのようなもとで、本大会は「大学評価と大学経営」をテーマとする。前大会(大学評価学会第9回全国大会)では「『質保証』を問い直す—発達保障からのアプローチ—」をテーマとして掲げた。「大学評価」が日本の大学に何をもたらしたのか、「発達保障」のために現実の「大学評価」は貢献してきたのだろうか。この問題を解くカギの一つは「大学経営」である。

大学経営は、高等教育機関としての大学が、その社会公共的責務を果たすために行われるものである。こうした大学経営には、法人(設置者)、教員、事務職員、学生などの当事者が協力関係を構築し、ともに Development を志向することが欠かせない。「大学評価」を通じて明らかにされた問題点や課題は、大学経営の問題としても捉えなおされる必要がある。しかし、現状の「大学評価」は大学経営の改善、そして大学行政の改善には十分関連付けられていない。

以上のような問題意識から、本大会では「大学評価と大学経営—学生・教員・事務職員・法人の Development—」をめぐって議論を深めたい。今、日本の大学、高等教育のありよう、そして学術のありようが問われているもとで、学会内外の多数の方々参加をお願いしたい。

日時:2013年3月9日(土)～3月10日(日)

場所:龍谷大学(深草キャンパス) 京都市伏見区深草塚本町67

＜アクセス＞京阪電鉄 深草駅から徒歩5分／京都市営地下鉄 くいな橋駅から徒歩10分
JR 奈良線 稲荷駅から徒歩10分

参加費:会員1500円／会員外3000円(申込不要)／院生等1000円

懇親会費:4000円(院生等2000円)

※参加費、懇親会費とも学生・大学院生である場合には、非会員であっても「院生等」の区分です。

大会連絡先:大会実行委員会 委員長:細川孝(龍谷大学)

E-mail: hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp TEL:075(645)8634

3月9日(土)

9:00 ~ 受付(22号館1階)

9:30 ~ 12:00 第1分科会 (会員報告分科会)

[A会場:22号館102教室] 司会:川口洋誉氏(愛知工業大学)

- 1) 上中良子氏(京都橘大学)
「教育とその評価のありよう考察—ヒーラー学級実践における“学び論”を通して—」
- 2) 蔵原清人氏(工学院大学)
「大学評価の20年—受審側の経験から考える—」
- 3) 日永龍彦氏(山梨大学)
「CI&E 担当官による大学のアクレディテーション理解—1940年前後の米国におけるその実態に焦点をあてて—」

[B会場:22号館103教室] 司会:水谷勇氏(神戸学院大学)

- 1) 塚田亮太氏(専業非常勤)
「中国人大学院留学生に対する導入教育の現状と課題」
- 2) 西垣順子氏(大阪市立大学)
「教養教育科目の到達目標に関する検討:可逆操作の高次化における階層—段階理論による青年期の発達保障の観点から—」
- 3) 桔川純子氏(東北大学大学院、日本希望製作所)
「韓国社会における代案大学設立の動向—ソウルの地域づくりと地球マウル大学(仮称)設立の試み—」

12:00 ~ 13:00 昼食休憩(第V期 第4回理事会)
(※会員控室:22号館107教室、理事会:22号館106教室)

13:00 ~ 13:50 第10回 会員総会(22号館101教室)

14:00 ~ 17:45 シンポジウム(22号館101教室)

[基調講演]

**「一地方国立大学から見た
(日本の)高等教育政策、経営、教育実践の今日的課題」**
山本健慈氏(和歌山大学 学長)

[報告]

1) 重本直利氏(龍谷大学)
「大学マネジメントの貧困からいかに抜け出すか
——評価活動を大学経営の『質保証』につなげる——」

2) 田中秀佳氏(名古屋大学大学院)
「院生・若年研究者のキャリア形成と大学経営」

<討論者>塩野博雄氏(立教大学)、堀雅晴氏(立命館大学)

<司会>日永龍彦氏(山梨大学)、光本滋氏(北海道大学)

18:00 ~ 19:45 懇親会(22号館地下食堂ホール3)

10:00 ~ 12:30 分科会(午前の部) 3月10日(日)

第2分科会 座長:井上千一氏(大阪人間科学大学)(22号館102教室)

「大学経営」

<趣旨>大学経営は、高等教育機関としての大学がその社会的使命を達成するために行われるものである。営利企業とは異質の組織(経営体)である大学の経営のありようは、営利企業とは異なった原理にもとづいている。

一方、大学評価は、高等教育機関としての大学が、その教育・研究・経営(大学経営)を自主的に、そしてピア・レビューにもとづいて評価し、その改善に役立てていくためのものである。このような意味で、大学経営と大学評価は密接に関係している。

2004年の国立大学法人化、認証評価の法的義務付けによって、日本の大学評価は新たな段階に達したが、日本の大学評価は、大学評価の原理からすれば異質な内容を含んでいる。また、日本の大学評価は、日本の大学経営がもともと抱えていた問題を改善するものにはなり得ていない。以上のような問題意識から、本分科会では、学校法人(私立大学)に焦点をあてて、「大学経営と大学評価」の関係について議論したい。

- 1) 由井浩氏(龍谷大学) 「PDCAの誤読と日本の『大学評価』」
- 2) 細川孝氏(龍谷大学) 「大学評価と学校法人——ブラック大学の事例を踏まえて——」

第3分科会 座長:植田健男氏(名古屋大学)(22号館103教室)

「高大接続」

<趣旨>大学進学率が上昇し、「大学全入時代」とも言われるような状況のなかで、大学入試の「選抜機能」の低下が進行し、大学生の「学力」問題が論じられるようになってきている。また、「グローバル化」・「知識基盤社会化」のなかで教育への産業界からの期待も変化しつつあり、「質保証」が課題として提起されるようになってきている。

それは高校での学びと大学教育のあり方の双方の問題として、また、それらの非接続状況が問題として問われるようになってきている。こうした高大接続をめぐる問題状況と課題を構造的に把握するとともに、高校、大学それぞれの場における実践報告を受けて議論を進めることとしたい。

- 1) 佐々木隆生氏(北星学園大学) 「高大接続をめぐる現状と課題」
- 2) 跡部重夫氏(塾の会・愛知 テスト委員会代表)
「高大接続の実践的諸問題」
- 3) 袴田陽士氏(高等学校教員) 「『伝統校』の教育実践の現状と課題」

12:30 ~ 13:30 昼食休憩(第V期 第5回理事会)
(※会員控室:22号館107教室、理事会:22号館106教室)

3月10日(日) 13:30～16:00 分科会(午後の部)

第4分科会 座長:橋本勝氏(富山大学)(22号館102教室)

「学生参画」

＜趣旨＞大学において「学生参画」は古くて新しい問題である。ユニバーサル段階を迎えた大学教育が大きな質的転換を余儀なくされる流れの中で、かつての「構成員自治」とは全く性格を異にする「学生参画型FD」が登場し、「学びの主権者」としての学生が、教職員と一体化しながら進める大学教育改革のムーブメントは今や全国に波及し、多くの大学で活発化し始めている。しかし、今後、それがどのように定着、進化、発展していくのか、あるいは低迷、衰退への道を歩むのかは予断を許さない。

本分科会では、大学評価との関係の中で「学生参画型FD」のこれまでの振り返り、これからを展望することで、「学生参画」の意義と限界につき参加者全体で議論したい。

※ 参加者をグループに分けた「討議型」分科会として展開予定です。

- 1) 服部憲児氏(大阪大学)・前田裕介氏(大阪大学大学院)
「大阪大学における学生参加型FD・教育改善—1980年代・2000年代の3つの取り組みの比較検討—」
- 2) 河島広幸氏(北陸先端技術大学院大学大学院)
「学生の視点から見る『学生FD』—大学共創フォーラムの活動報告と修士論文テーマとしての学生FD—」

第5分科会 座長:村上孝弘氏(龍谷大学)(22号館103教室)

「発達保障」

＜趣旨＞大学の本務である教育・研究にかかわって、学生・教員・職員の「発達保障」の視点に立って、評価方法の開発、授業実践の改善、教職協働の取り組みなどを創出していく必要がある。会員諸氏が日々取り組んでいる試みを披露し合い(第一分科会=自由論題での関連発表を含む)、「発達保障」(ないし発達支援)の営みの楽しさや難しさを共有し、その可能性&面白さを伝えられればと思う。中には名人芸的なもの、その組織故に可能な試みもあるかもしれないが、ちょっとした工夫で応用できたり、広く般化可能な試みも少なくないはずである。「発達保障」に関心をもつ方々の参加を呼びかけたい。

- 1) 伊藤亜希子氏(山梨大学)・日永龍彦氏(山梨大学)
「学生の学びをどう多面的に評価するか—教育プロジェクトの評価手法開発事例をもとに—」
- 2) 渡部昭男氏(神戸大学)
「大学における応答型講義づくりの試み」
- 3) 平田有喜宏氏(同志社大学)
「職員と教員の協働で創るPBL—同志社大学プロジェクト科目」

16:10～17:00 総括討論(22号館102教室)

司会:望月太郎氏(大阪大学)

＜大学評価学会共同事務局＞(事務連絡先は龍谷大学)

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11 神戸大学大学院 人間発達環境学研究所 渡部昭男研究室

E-mail:akiowtnb@port.kobe-u.ac.jp

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学経営学部 細川孝研究室

E-mail:hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp TEL:075(645)8634